

人材養成に関する目的

建築学専攻は、建築学に関わる研究者・技術者・設計者として求められる学識と技術を習得し、自ら問題を設定して解決する研究能力、学際的な見地から実務分野の課題を解決できる能力を持った人材の育成を目的とする。

卒業(修了)認定・学位授与の方針(本学HPリンク): https://www.tus.ac.jp/about/graduate_school/policy/

カリキュラム・ポリシー

修士課程においては、学士課程で身につけた教養、基礎学力、専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「修士研究」により、建築に関わる学識を深くめると共に、広い視野から考える能力を修得し、それらを生かして高度な専門性を要する研究開発を行う能力を養う教育課程を構成する。

(1)「専門科目」では、建築学分野におけるより高度な専門知識を身に付けるため、特論、実験、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。

(2)「一般教養科目」では、幅広い学識を涵養する授業科目、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等を養う授業科目を配置する。

(3)「修士研究」では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、研究に対する自立的な行動力、専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、建築学分野における研究者・技術者・設計者等として国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する。

分野	科目群で身に付ける能力	※3 2年次に履修可能		※4 修士2年間で自由に履修可能なカリキュラム	
		前期	後期	前期	後期
建築計画学	建築意匠、設計計画、建築史、空間論、構法計画に関わる高度な専門性の修得、およびその専門性を活かし、自ら社会的な課題の設定や解決に取り組むことができる能力	建築設計A(演習) 都市計画特論 建築学特別講義 A	建築設計B(演習)	建築設計特論 建築意匠特論 建築デザイン特論	建築史特論 建築構法計画特論A 建築計画特論
建築環境学	設備設計者、建築環境関連技術者、研究者などの専門家として実社会で活躍するための包括的な専門知識・技術	建築学特別講義C 建築環境特論C	建築環境特論D 空調設備特論 建築設備計算演習	建築環境特論E 建築環境特論E	建築環境特論E 建築環境特論E
建築構造学	構造設計者、技術者、研究者などの専門家として実社会で活躍するための包括的な専門知識・技術	建築振動特論 建築構造力学特論 建築材料特論B	建築学特別講義B	建築構造技術特論 建築耐火設計特論	建築構造設計及び解析
建築数理学	建築学の各分野において専門家として実社会で活躍するための数理的な専門知識・技術	建築数理学特論 ※1		非線形解析特論 ※2	
全分野共通	グローバル化する社会において国を越えて社会に貢献するため、関連する分野の専門知識を活用して、技術的な課題を解決する能力	修士研究1	修士研究2	修士研究3	修士研究4

一般教養科目	教養(共通)	
	学際的で幅広い分野の学習や異分野交流等を通して、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等、幅広くかつ深い学識を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 生物科学特論 現代物理学特論 物理学から見る理学の世界1 物理学から見る理学の世界2 物理学から見る理学の最前線1 物理学から見る理学の最前線2 物理学から見る理学の未来1 物理学から見る理学の未来2 倫理学対話 現代東アジア特論 応用言語学特論 英語圏文学・文化演習 表現文化特論 総合芸術学演習 国際政治特論 社会倫理特論 ダイバーシティ社会論演習 知財戦略特論 知的財産特論